

まつやまこう
松山港外港地区港湾整備事業

受賞機関 国土交通省四国地方整備局松山港湾空港工事事務所
愛媛県松山地方局建設部

はじめに

松山地域は平成5年3月にFAZ地域の指定を受け、愛媛国際貿易ゾーンを設定し、関連施設の整備を行ってきた。愛媛FAZ構想に対応し平成5年6月に港湾計画を改訂し、港湾施設としては、1万t級岸壁(-10m)1バース、4万t級岸壁(-13m)1バース及び5千t級岸壁(-7.5m)3バース等を外港地区に計画し平成6年度より事業着手し、平成13年3月に岸壁(-10m)1バース、岸壁(-7.5m)2バース等、一部施設の供用を開始した。これにより増大する貨物、船舶の大型化に対応が可能となり、荷役効率が飛躍的に向上し、荷役時間の短縮による船社の寄港コスト削減への支援や荷役サービスの拡充が図られ、利用しやすいコンテナふ頭となり、国際物流拠点として松山港の機能強化が進んだ。

事業の概要

主な施設：岸壁(-13m)1 B260m、岸壁(-10m)1 B170m、岸壁(-7.5m)3 B130m(危険物岸壁含む)、防波堤(北)、吉田浜地区防波堤、ガントリークレーン1基、トランスファークレーン3基

事業の特徴

今回供用を開始した岸壁(-10m)コンテナターミナルは、エプロン幅が50mで、松山港初のガントリークレーン(定格荷重30.5t)と四国初のトランスファークレーン3基等を有した外港地区全体構想に沿った本格的コンテナターミナルとなっている。また、阪神大震災クラスの地震にも耐えうる本港初の



松山(-10m)コンテナターミナル荷役状況



岩壁(-10m)コンテナターミナル荷役状況



砕岩状況

耐震強化岸壁となっており、当地域における防災拠点としても大きな役割を担うものとなっている。さらに、ケーソンの中詰材としてリサイクル材である銅水砕スラグを使用することで、建設費のコスト削減への寄与と瀬戸内海の海砂採取禁止という動きの広がりの中で環境にも配慮した施設となっている。

当地区は、松山空港の制限区域内での作業となるため、ケーソン据付等は夜間工事となり、工程計画の検討と工程管理が重要となった。さらに当地区は、地盤の土質性状が砂質土から硬岩までである複雑な土層となっており、岩質の適正な判断を行うことが工程管理において重要となり、また付近を航行する船舶の安全を確保するため、砕岩兼用グラブ浚渫船(スパッド式)により効率的な浚渫作業を行った。

埋立に際しては、陸上工事から発生する建設残土の受け入れ調整を行い、双方の工事進捗、工費削減に寄与した。

受賞賛助会員 アイサワ工業(株)松山営業所、五洋建設(株)四国支店、佐伯建設工業(株)四国支店、(株)テトラ四国支店、東亜建設工業(株)四国支店、東洋建設(株)四国支店、日本道路(株)四国支店、復建調査設計(株)大阪支社、みらい建設工業(株)四国支店、りんかい建設(株)四国支店、若築建設(株)四国支店